

特別展

安城ゆかりの大名 家康を支えた三河石川一族

会期：2018年9月22日(土)～11月4日(日) 観覧料：一般400円 中学生以下無料

石川氏は徳川家康を輩出した安城松平家の有力家臣でした。また、真宗門徒であり、市内小川村を本拠として西三河に蟠踞した一族です。本證寺(市内野寺町)門徒連判状には、小川の石川忠成(清兼)を筆頭に多くの一族が連判しています。

家康の最初の苦境といわれる三河一向一揆では、忠成や子の家成、嫡孫の数正らは家康方でしたが、多くの石川一族は門徒方となっています。そして、家康の支配地が拡大する中、家成は掛川城を預かり、数正は岡崎城代となり、多くの合戦で活躍します。天正13年(1585)に数正は豊臣秀吉のもとへ走りますが、後に松本城主になり、石川氏の在城中に今に残る松本城を築城しました。

今回の特別展では、三河一向一揆や数正、家成周辺の史料を中心に、三河石川一族に関連する史料などを広く集めて展示します。



本證寺門徒連判状(天文18年(1549)本證寺蔵)

特別展

幕府崩壊 —幕末維新を生きた地方の証言者たち—

会期：2018年11月24日(土)～2019年1月14日(月・祝) 観覧料：一般400円 中学生以下無料

平成30年は、明治元年(1868)から150年の節目の年にあたります。

幕末維新といえば志士の活躍が目立ちますが、時代の表舞台には登場しなくとも、激動の時代に生きた記録を後世に残した地方の人たちが存在しました。安城市域にも2人の人物の記録が伝わっています。一人は幕府歩兵隊として水戸天狗党の乱、第2次長州征伐に従軍した安城村の農民、もう一人は天狗党の乱をきっかけに水戸を追われた後、福島藩に登用され、維新後藩の転封とともに三河に移り住み、里村(市内里町)で私塾を開いた水戸出身の漢学者です。彼らはまぎれもなく時代をたくましく、したたかに生き抜いた地方の証言者でした。

今回の特別展では、彼らの記録を中心に、幕末維新の世相や地域の混乱、幕府歩兵隊の動向などについて紹介していきます。



観光丸模型(船の科学館蔵)

企画展

江戸の愉しみ —安城の相撲・芝居—

会期：2019年2月2日(土)～3月24日(日) 観覧料：無料

江戸時代、相撲と芝居は庶民にとって大きな娯楽でした。江戸、京、大坂といった大都市では相撲・芝居を専門とする集団が組織され、毎年決められた時期に興行が行われていました。その賑わいは、浮世絵など当時の出版物でみることができます。彼らは、大都市での定期的な興行以外では、巡業として各地をまわっていました。地方で相撲・芝居が行われるようになった背景には、こうした巡業が盛んに行われたことが考えられます。

安城市域にも、地域の百姓たちが祭礼などで行った素人相撲や地芝居に関する資料が残されています。今回の企画展では、江戸時代から明治期にかけて、市域の村々で行われた相撲・芝居に関する資料を展示し、その内容や仕組みを紹介します。



菊間 清見湯又市(本館蔵)

利用案内

[常設展観覧料] 個人200円(中学生以下無料)・団体(20人以上)160円
障がい者及び同伴者1名様 100円

[開館時間] 9:00～17:00(入館は16:30まで)

[休館日] 毎週月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始(12/28～1/4)

交通案内

- 名鉄西尾線南安城駅より東へ徒歩10分
- JR東海道本線安城駅より、あんくるバス(1番系統安祥線)川島行き10分
- JR東海道新幹線三河安城駅よりタクシー 20分
- 無料駐車場(250台収容)あり



住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地

電話 / 0566-77-6655 FAX / 0566-77-6600

URL / <http://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館



安城市歴史博物館 催し物案内

2018.10-2019.3

ANJO CITY MUSEUM OF HISTORY



幕末歩兵隊 従軍記録(本館蔵)